

Namaste! デリーにも、セーターを着込む季節がやってきました。インドといえば暑いイメージがありますが、北の方にあるデリーは非常に寒く、夏との対比に驚くばかりです。灼熱のデリーに赴任して半年。季節の移り変わりとともに、色々な驚きや発見がありました。今回は、その中から3つご紹介しようと思います。

1. デリーにとけこむ?
2. 抜群のコントロール
3. 街角の野生

1. デリーにとけこむ?

私のアパートの大家さんは、母と同じぐらいの世代の女性です。女性1人暮らし世帯が皆無、外国人もほとんどいないという地域の状況もあってか、いつも何かと気にかけてくれる親切な人です。私の部屋で、休日の朝、チャパティ焼き方講座が始まったこともありました! さて、先日、立ち話の際、大家さんが「あなたが日本人だということ、ほかのアパートの住人に言ってないよね」。それ、秘密だったのでしょうか! ? 「言ってないと思うけど… 忘れました」と私。なぜ言うてはだめなのかという理由を、大家さんはこんこんと語ってくれましたが、ヒンディー語が難しすぎて理解不能です。そして大家さんは、こう言い残して去っていきました。「あなた、アッサム地方から来たことにするから」。

想像するに、外国人女性が1人で暮らしているということが広まると危険だと考え、アドバイスしてくれたのでしょう。地域にとけこむには、インド人であることが一番。心配してもらい、うれしかった出来事でした。ただ、近所の人が、「アッサム地方から来た」と信じてくれるかどうかは疑問ですが…。



【熟練技でチャパティをのばす大家さん】

2. 抜群のコントロール

私が活動先の学校へ出発するのは、朝 7 時。ちょうど新聞が配達される時間です。アパートの 5 階にある私の部屋から、階段を下りていくと、配達されたての新聞が、各階のベランダの床に置かれているのが目に入ってきます。「インドの人は、新聞をベランダで読むのだろうか」と、疑問に思っていたのですが…。ある朝、驚く光景を目にしました。

スクーターの荷台に、たくさん新聞を乗せた若い男性。この人が配達しているんだな、と、通り過ぎようとしたのですが、いやに鋭い目でアパートの上の方を見ているのが気になりました。不審に思い、それとなく注目していると、おもむろに新聞を筒状に丸めて…投げた！！うまい具合に、目標の階に落下したようです。毎朝、各部屋のベランダの床に、新聞が転がっている理由がいつぺんにはっきりしました。それにしても、すごいコントロール。投げているところの写真を撮らせてもらいたい気持ちが、会うたびに湧き上がるのですが、一応私も「アッサムから来たインド人」ですから…。物見高い態度は、慎んでいます！



【矢印の先に着地（4階）】

3. 街角の野生

デリーには、野良犬がうじゃうじゃいます。観光地にすら彼らは生息しており、長々と寝そべる姿を遠巻きにしながら人が行き来しています。狂犬病になると死ぬといいますが、できれば関わり合いになりたくないものです。

私が住むのは、東デリーの住宅街ですが、ここでも犬たちが徒党を組んで闊歩していて、こわごわ注視するうちに、固体の識別ができるようになってしまいました（向こうは私のことなど歯牙にもかけないでしょうが）。学校への行き帰り、群れと行き合わせたときには、目をあわせないように体を硬くしていますが、犬たちは、私が意識するほどには人間を気にかけていない様子。忙しげに通り過ぎていきます。リーダーを中心に群れで行動する生態や、夜中のオオカミのような遠吠えから、「人間の友」だと思っていた犬の、野生の一面を見た気がしています。

犬好きな人に聞いたのですが、ストリートドッグの寿命は 5 年程度とのこと。よく見ると、ケガを負った犬や、走るのが異様に遅い犬が群れにおり、ストリートの過酷さがうか

がえます。だからでしょうか？そのような犬たちを見ると、いつか車窓から見たスラム街や、駅で会った物乞いの子どものが、頭に浮かんできてしまいます。

犬だけでなく、サルや牛やブタなども、野生化し、街角に生息しています。その迫力たるや…。勝敗は火を見るより明らかなので、視線をそらせて道をゆずるのみです。ちなみに、今回紹介した犬たちの写真は、残念ながらありません。下手にカメラを向けて、「人間にからまれた」とでも思われたら大変ですから！



【駅構内を歩き回るサル】

このように、デリーの暮らしは刺激がいっぱいです。書き足りないことが、まだまだあるのですが、それはまた次の機会に。最後に、前回お話したサリーの写真を。一枚の布を複雑に折るやり方を目の当たりにして、「着付けを学ぶ」プランは棚上げとなっています。どうでしょう、少しは現地の人（アッサム人）らしく見えるでしょうか。今回も読んでいただき、ありがとうございました！

